



みみタロウ

日本語版 2025年1月 ☆154号

日本語学習は居酒屋で

今回みみタロウは、大津市在住のアデルリン・ウォールさんにお話を伺いました。



私がフランスから日本に来たのは14年前。大学生の時、アニメのビデオを観て日本語に興味を持ち、フランス日本協会での日本人留学生との交流などを通して日本に行ってみたいと思いました。環境生態学の研究で博士課程を終えた後、京都大学生態学研究センターの연구원となり、琵琶湖湖底の堆積物に生息する有殻アメーバの研究をしました。そして2年の研究期間の終了前に日本人の夫と出会って結婚。小学5年生と双子の2年生の三人の子供がいます。

気になった時に学ばせたらいいと考えています。日本の学校は、全てにおいて丁寧ですが、細かな規則が多すぎるように思います。保護者が学校へ行く機会も連絡のプリントも沢山あって、お母さんは大変です。良い点は、掃除の時間や家庭料があることです。料理やボタン付けなど基本的な生活力が身につく、息子も簡単な料理ができるようになりました。家では子どもの勉強を見てあげたいのですが、日本語はもちろんお父さんが担当で、私は理数系なのに日本式の割り算は訳が分からず、ちょっと悔しいですね。

出産後は育児のため、自分の研究から遠ざかっています。仕事があって出産したなら、育児休暇を挟んで仕事を継続することができたのですが、私の場合、次の仕事を探す時期と出産と育児が重なり就職が難しくなりました。最近では子育てに少し余裕ができたので、昨年からは龍谷大学の研究アシスタントをしています。自分の専門外の研究室での仕事なのですが、それでも研究室にいて学ぶことが多く、学生時代に戻った気分です。子育ても仕事も今とても充実しているけど、でもやっぱり早く自分の研究に戻りたいですね。

来日後、私は周りの日本人から英語ばかりで話しかけられるので、日本にいてのに日本語が上手にならないのが悩みの種でした。そんな時、駅前の居酒屋で英語のメニュー看板を見つけ、「これだ！」とひらめき、居酒屋に通うようになりました。そこでは、英語を話さない普通の日本人と普段の日本語で話せます。大体「どこから来たの?」「何してるの?」から会話が始まり、辞書を片手に一生懸命会話するうちにどんどん関西弁が上手くなりました。居酒屋のカウンターでは夫とも知り合え、その界隈で「夜に現れるフランス人」として人気者にもなりました。その後、家で育児をするようになると、話し相手は家族と学校の先生だけになり、とても寂しい思いをしていました。それで週に2回、夜にイタリアンレストランで働き始め、もう7年。人との出会いと日本語会話を楽しんでいます。リラックスした雰囲気の中で、日本人は仕事モードからパーティーモードへの切り替えが見事で、酔っぱらっても「すみませんでした!」の一言で全てOKなんですね。皆さんも、同国人と話すのは楽だけど、是非、いろんな日本人としゃべってみてください! 面白い人がたくさんいますよ。

出産も子育ても日本でしか経験していないので比較はできません。ただ一人目を自然分娩ですることには、フランスの友人から「痛そう!」と随分驚かれながらも「日本人もしているから」と無事出産しました。大変だったのは育児です。夫婦とも親が遠いし、周りに手伝ってくれる人はなく、夫の手を借りながら、一人でこなしました。双子をベビーカーに乗せ、うえの子の手を引ながら買い物に行き、我ながらよく頑張ったと思います。子ども達は日本で育てるつもりで日本語で育てていて、友達ともうまくいっているの安心しています。フランス語は、いつか本人がやる

「やってみないとわからない」の精神で、一人祖国を離れて世界人となり、様々な面白い体験をしてきました。今度は、世界中の様々な分野の研究を通して世界の扉を開け、新しいことを学んだり、発見したりしたいと思っています。